

編集部が欲しいと思った秀逸デザインの雑貨を厳選紹介。男のベルトにも注

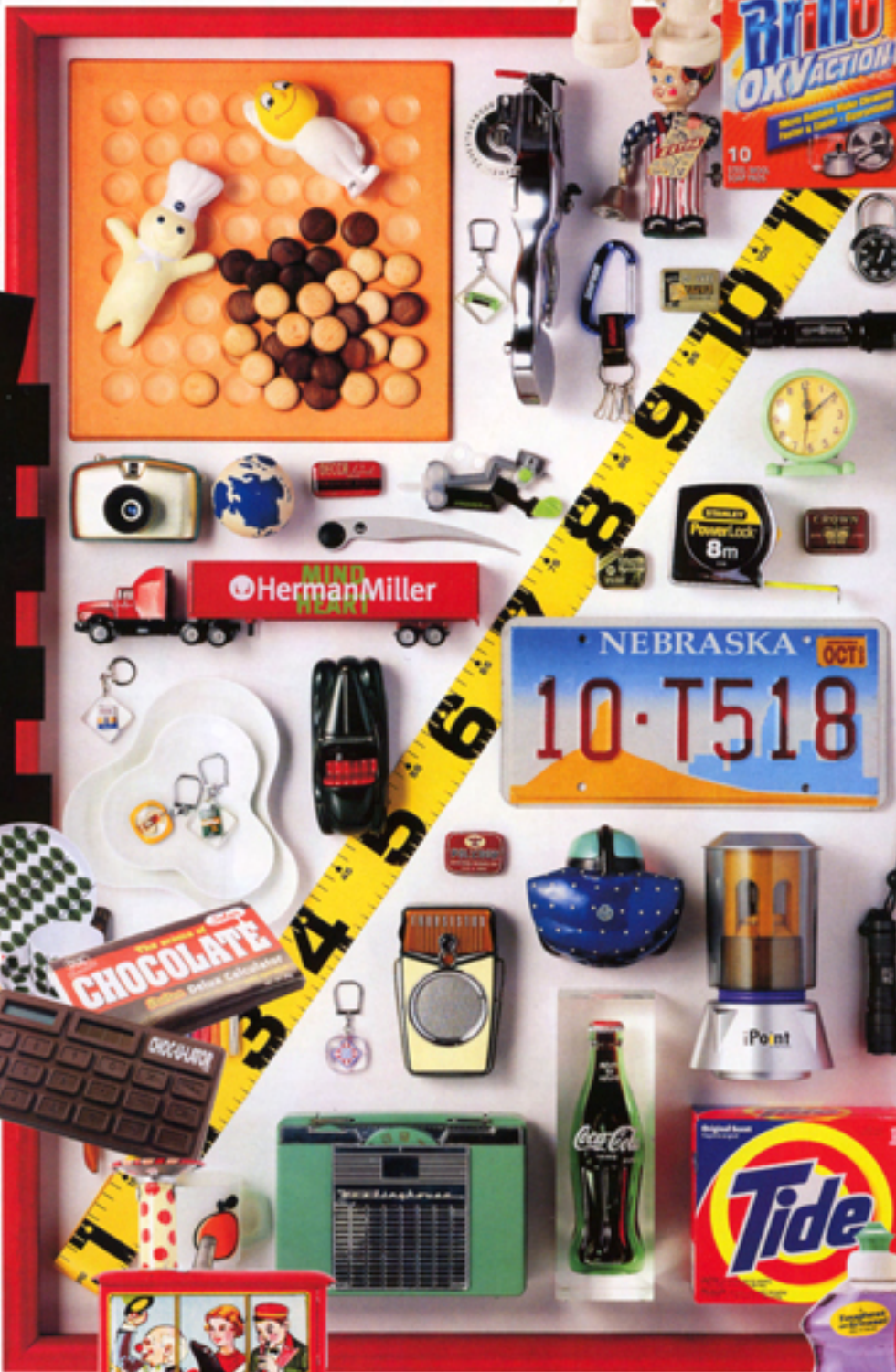
# mono

男には  
ガラクタク  
必要  
必要  
必要

# 男性 雑誌



最新ホット式を徹底取材！  
エスプレッソの誘惑  
どこが変わった？  
スーパークラブ新旧比較



10-2

モノマガジン特集  
新製品から時代を  
2007NO.569 定価620円  
www.monomagazine.com  
平成19年10月2日発行・毎月2日2日・16日  
第26巻第17号・通巻569号  
昭和57年11月2日 第3種郵便物認可

# 他 雑誌

ザッカ  
100  
点

mono  
anniversary  
25th  
since 1982



# このイス何に見えますか?



Fish chair

「フィッシュチェア」

小誌掲載に当たり日本での価格が決定。価格10万3950円税hstyle.com原宿本店 ☎03-3400-3434

動物シリーズの作品で注目の

サトヤンドラ・パックハール

Satyendra Pakhalé

1967年インド生まれ。スイスでデザインを学んだ後、フィリッスを経て、1998年からアムステルダムを拠点に活動を開始。世界のトップ企業と数多くの仕事を抱えている。



オランダで才能が開花した  
次なるスター候補

サトヤンドラ・パックハールのスタジオを訪れると、色鮮やかな動物の形をしたイスたちに出迎えられる。写真左上はホースチェア。そう、馬である。さらにパンサーチェア、フィッシュチェア……。どれも、子供の絵をそのまま形にしたようだが、予想に反して座り心地がいい。「見る人に刺激を与えないとね。最近の工業社会では忘れられてしまったけど、古代から形には意味があるんだ。それに、古くからある技術を現代の製品にも使っているんだよ」そう話すサトヤンドラには、もうすぐ発表されるフィアットとのプロジェクトが待っているとか。

ところで、何故アムステルダムに住んでいるんだろう。「自由で、人間的で、居心地がいいからさ」印象的な答えだった。



自作と共に、1.動物柄マスクのサミラ・ブーン 2.キッチンプロダクトのアトリエ・アーノット・フィッサー 3.毒のあるバッグのフリーガー&ファンダム 4.セラミックのロイヤル・ティヒラー・マッカム 5.セクシーな男性便器(写真下)のバズルーム マニア! 6.アーティスティックなテキスタイルのスタジオ・イーボッシュ 7.ハイテクファブリックのハイブリッド・アンド・フュージョン 8.セラミックを手がけるサンダー・ルスケ 9.個性的な雑貨のスタジオ・ラウレンス・ファン・ワーリゲン 10.便利な本立てのブカレスト

## 10月31日~11月4日 デザイナーズウィーク2007 「100% Design Tokyo」の ダッチデザインブースへGO!

今、注目を集めるダッチデザイン。便利なものから笑えるものまで、さまざまなものが作られている。そんななか、オランダのユニークなデザイナー10組が、この秋、神宮外苑で行なわれるトレードショー「100% Design Tokyo」のため来日する。国を挙げてのサポート体制は随一。しかも、デザイナーと直接話せる貴重な機会だ。是非、覗いてみて欲しい。

